

すぎなみ大人"熟"してる？

Jukusiteru? TIMES'17

平成29年10月18日発行
発行元:塾熟出版(事務局)

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317 -6621 FAX 3317 -6620

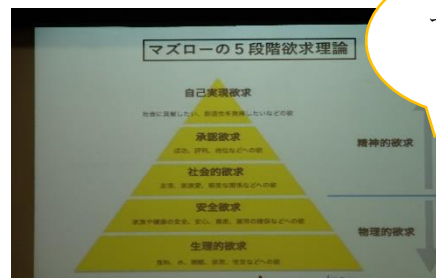
第6号

9月20日
受講生 21名



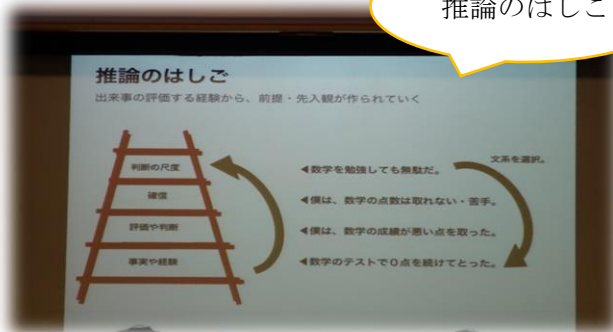
Mission2 は、「自分リテラシー」として自分の思考のクセに気付くことが目的です。そのアプローチとして、脳科学や心理学の分野の考え方が有効です。そこで今回は、学習支援者の伊藤さんからいくつかの脳科学や心理学の理論を教えてくださいました。

- 1) マズローの5段階欲求理論
- 2) プロスペクト理論
- 3) 認知的不協和理論
- 4) 推論のはしご
- 5) ジョハリの窓
- 6) 6ハット

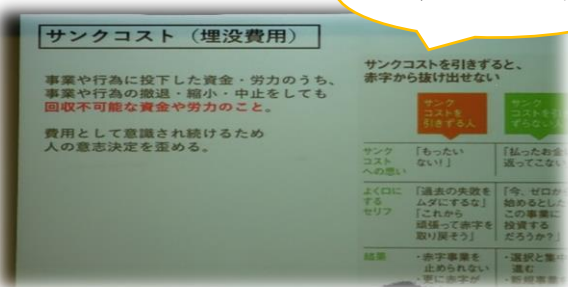


マズローの理論

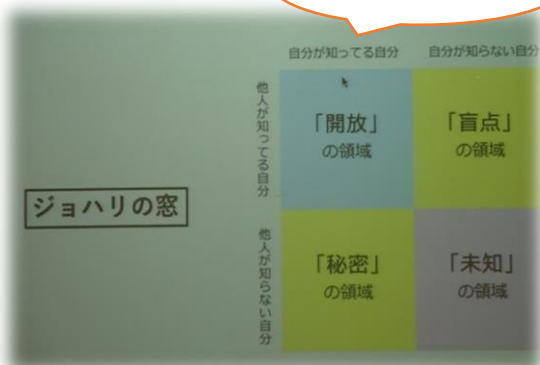
推論のはしご



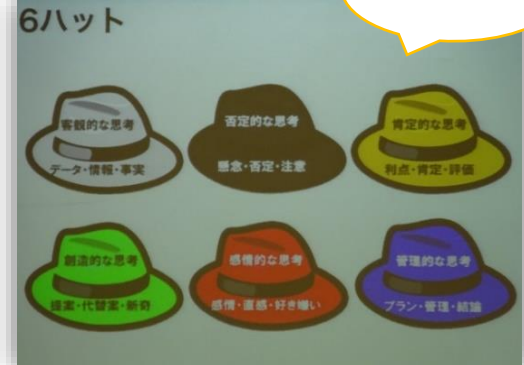
サンクコスト



ジョハリの窓



6ハット



プロスペクト理論の中で、“サンクコスト（埋没費用）”の考え方のお話がありました。サンクコストとは、何かを始めてしまった後には、取り戻せないコスト（時間・お金、労力）が気になってしまい、見直し等の意思決定を歪めてしまうというものです。認知的不協和理論では、人は自分たちを正当化して考えるクセがある、というお話もありました。どちらも、日々の生活を振り返ってみると、心当たりがあることでした。

上記の理論のほか、「影響力の武器」の本のお話も印象に残りました。これは説得の心理について書かれた本です。その中に出てくる、“社会的証明”というのは、人は自分の判断（意見）の妥当性を社会に求めることがあるというものです。自分ではいつも自己判断をしていると思っているけれど、実は自分で判断していることは意外と少ないというお話です。判断を委ねる場合は、2つあり、1つは少数者の判断、もう1つは多数者の判断です。前者は、専門家に判断を委ねる場合で、例えば、体調が悪い時に自分ではどこが悪いかわからないので、医者に判断を仰ぐというものです。後者は、人は自分の知らないことがあるという自覚が無意識下にあり、他者の行動を見て、自分の行動を決めるというものです。

皆さまの感想より

自己の考え方の理論的な学習が面白かった。先入観、偏見に気付かずに判断している。

自分の先入観やクセを確認してみたいと思いました。

先入観をなくすことは難しいが、少し広い心で物事を判断することが大事。新しい発見のある時間でした。

今後どのように自分の「未知」の領域を発見できるか楽しみです。

自分も多様だし他も社会も多様である。

なるほど～納得の繰り返しでした。自分の思考の偏りに気付いて良かった。

自分の先入観や思考のクセを知ることで、もっと幅広く情報を得ることがわかったけれど、実際にはなかなか難しいですね、これからの大人塾でさらなる自分リテラシーを深めて行きましょう！

〇すぎなみ大人“塾”してる?の発行にあたって〇 この新聞は事務局スタッフの視点と記録に基づいて作成しております。